

矢田俊隆 俊隆 西洋史學者。大正四年七月（二十）に三重縣生まれ（一九  
二五）。昭和十二年東京帝國大學文學部西洋史學科卒。成蹊大學、北  
海道大學各教授歴任。

譯書、フリードリッヒ・タインツケ著『獨逸國家發生の研究』(昭  
和十八年)二月十日(富士房)、同『ドイツの悲劇—考察と回想』(昭和  
二十六年十一月二十日(弘文堂)「マテネ新書」)、同『世界市民主義と  
國民國家—ドイツ國民國家發生の研究』全二冊(一・昭和四十二年七  
月、二・二十七日、II・四十七年七月、一十八日(岩波書店)等。著書『女性西  
洋史』(合著・山上正太郎編、昭和二十六年七月十五日(養徳社)、『ロハ  
プスブルグの帝國史研究—中欧多民族國家の解体過程』(昭和五十二年  
十月、二十七日(岩波書店)等。

